

平成23年 春 第27号

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

あかり

A K A R I

看護師さんを
募集しています

東日本大震災の医療援助活動のご報告	1
「てんかん支援ホットライン」のお知らせ	3
絵本をいただきました。	3
お裁縫ボランティアで助かっています	4
院内にも花いっぱい	4
第27回てんかん専門職セミナー報告／葵タワー	5
敷地内全面禁煙がスタートしました!	6
てんかん外来再診の診療体制／医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ	8
当院へのアクセス／イベント情報／本	8

東日本大震災の医療援助活動のご報告



2011年3月11日午後2時46分、私は病棟で患者さんの回診中でした。突然ぐらぐらと大

きく病棟が揺れました。かなり大きな揺れだったので(震度4)、どこかで大きな地震があったのかなあとは思いましたが、よもやこのような被害をもたらす大地震だったとは、そのときは夢にも思いませんでした。そしてその後の津波の映像……現実のものとは思えない光景に言葉を失いました。

その後被害がいかに甚大であるかが明らかになると、次々と災害医療に携わる人々が現地に向かい

ました。私は以前に台湾やインドネシアなど海外での災害医療の経験があったことから、そうした方々から情報が入ってきましたが、いかに悲惨な状況かということが言葉だけでも伝わってきました。

そのような中で、当院にも国立病院機構の一員として災害援助に加わるというお話があり、私が被災地に赴くことになりました。これまでに何度か災害医療の経験はあるものの、未曾有の大災害の現場に向かうということでかなり緊張しながら情報収集を行いました。私のほかに薬剤師、看護師、事務職員2名の5名でチームを組み、3月16日静岡を出発しました。新潟から山形、宮城を経由するなかで、現地に近づくにつれてガソリンはすべて売り切れており、当院から持参したガソリンと同行した西新潟中央病院のチームが後方支援してくれたガソリンを使いながら進んでいきました。岩手県

に入り花巻から釜石を経由し、沿岸部の山田町に入りました。

山田町は隣の大槌町とともに、今回の地震で甚大な被害を受けた場所の一つです。「静かで魚のおいしい」漁業の町です。それがあの津波で多くの方が行方不明になってしまいました(3月25日現在)。被災地の光景はあまりに圧倒的で、人間の力を超えた何かを感じるほどでした(被災地に入った医療関係者に精神的なショックで地元に戻ったのちも眠れない、動悸がするなどPTSD(外傷後ストレス障害)と考えられる症状がみられているという話すらあります)。

我々は山田町の避難場所として大きな場所の一つである山田南小学校で活動をはじめました。ここには隣の武道場や幼稚園と合わせて当時1000人以上の被災者が避難していました。我々が訪れた3月17日にはまだ電気・ガス・水道はすべて不通で、トイレも中庭に住民の方が深い穴を掘って仮設トイレを作っている状態でした。また3月としては地元の方も驚くほど寒く、雪も降っていました。

ほかにも大学病院や日本赤十字社などの医療チームも山田町に来ていましたが、あまりに避難所が多く、夜に周辺で活動している医療チームと現地の災害対策本部で集まってミーティングを行い、翌日の活動場所を相談しました。我々は他の援助隊があまり持っていない抗てんかん薬などの薬をたくさんもってきました。我々が被災地に入った当時にはすでにてんかん患者さんの薬が切れてしまい、けいれん重積発作を起こしてヘリコプターで搬送されるなどの事態が生じていましたので、早く患者さんに薬を届けることが大切と考え、広範囲に避難所を回って患者さんを探すことにしました。

そこで釜石北部から宮古南部の沿岸部の避難所でできるだけ多くの方が避難している避難所をまわり、そこで直接患者さんがいないか聞いて回りました。



そこで何人かの患者さんに直接薬を渡すことができました。また被災者の方は日中自宅のあつ

た場所に戻ってご家族の捜索をしたり、使える日用品を探したりして避難所にいらっしゃら



ないこともありましたので、我々が薬を持ってきたことを伝えるビラを避難所に貼って回り、現地の災害対策本部やマスコミにも広報してもらうことにしました。その結果、さらに数人が山田南小学校で患者さんが自ら、あるいはことづけて薬をうけとることができました。またマスコミには岩手県内で当時てんかん診療が可能な施設の電話番号などを告知してもらうようにしました。最終的には20人ほどの患者さんに薬を渡すことができました。またてんかんの患者さんを探す間に、求めに応じて通常の内科診療も行いました。

また我々は現地で、あるいは静岡に帰ってからも患者さん、あるいは現地の医療チームからてんかんについての様々な相談を受けました。そのためそうした質問に応じるための対応窓口としててんかん支援ホットラインを立ち上げ、どこの病院ならてんかんをみてもらえるのか? どこの病院や薬局に薬があるのかなど大きな問題から、生活相談まで様々なてんかんにかかわる被災地からの様々な相談に応じています。

今回の派遣で最も印象に残ったのはやはり地元の方々が自らも被災され、中には家族を失った方もいるにもかかわらず、ほかの被災者のために懸命に、ときには笑顔も交えながら頑張っておられたことです。親を失った子供にも会いました。診療中に涙が出たのはあまり経験のないことです。

今回の天災に関してはこれからの復興・援助には国民皆の負担が必要であり、また原子力発電所の事故などもあって、程度の差はあれ、国民みなが被災者といっていると思います。避難所で見た光景を皆さんに伝え、被災者がみんなで協力することの大切さをこれからも訴えていきたいです。またみなさんも今回の教訓をふまえて、薬や身の回りの必要なものを用意しておくなど、対策をとっておきましょう。

(リハビリテーション科医師 小出 泰道)

「てんかん支援ホットライン」のお知らせ

東日本大震災に被災された方々に、職員一同こころよりお見舞い申し上げます。

てんかんは継続した治療が必要であり、薬物の中断は重積や受傷など生命の危機を生じる場合があります。震災により抗てんかん薬を失う、受診が困難等の理由により、服薬が継続できなくなることを心配しております。

当院では、被災地におけるてんかん患者さんを支援するため、下記相談窓口を開設しました。対象は下記の皆さまです。

① てんかんのあるご本人・ご家族

② 医療関係のみなさま

当院に通院中の患者様だけでなく、被災地にお住まいの方ならどなたでもご利用になれます。また被災地の医療支援にご尽力されていらっしゃる医療関係の皆様にも専門医が直接ご相談をお受けいたします。

電話 054-245-5446 (代) 「支援ホットラインへ」とお伝えください

ファックス 054-247-9781

メール sien@szec.hosp.go.jp または epilepsy.hotline@gmail.com

お知り合いで震災に遭い、てんかんに関して困っている方がいらっしゃったら、是非ともお伝えください。

(診療部長 久保田 英幹)

絵本をいただきました。

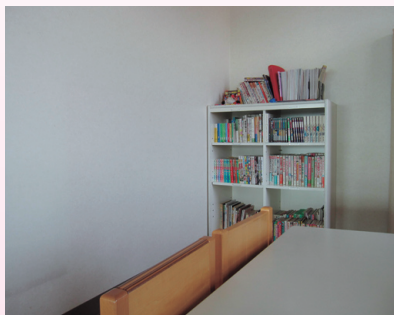
副看護部長 松山 みどり

このたび、社会福祉協議会を通して明治安田生命静岡支社より、三百冊以上の絵本・図鑑・伝記・児童書などをいただきました。A4病棟、A5病棟、療育指導室で活用しており、絵本の“力”を感じています。現代は、読書離れが叫ばれ学校ではわざわざ読書の時間をとって本を読ませるという時代になりました。

小さい頃からの娯楽と言えば昔は、読書か外で走り回ることでした。しかし、今はゲームやテレビと室内で遊ぶことが多く、また動画で視覚的刺激

を受ける遊びに限られています。その中で今回のような“本”の寄贈があり、それをきっかけに子ども達が読書をするようになりました。本当は、子どもたちも本が大好きで読書を希望していることがわかりました。寄贈された本を手に取り、無心に読んでいる子どもたちの姿をみて、改めて読書の大切さを実感しています。

小児は、入院中でもできるだけ家での生活環境に近づける必要があります。そういう意味からも今回の本の寄贈に感謝します。



本の設置



本って楽しいよ～



な～んだ～あ？

お裁縫ボランティアで助かっています

C1病棟看護師長 藤井 千穂子



重症心身障害児（者）病棟では衣類の修繕、患者様に合わせた裾やズボンの長さの調整が必要な方が多くいます。又入

浴時に床がぬれて滑らないように布マットを使用したりしています。この細かな衣類の補正やマットを縫う作業を今まで業者に依頼したり、保護者の方をお願いしたり、又看護師が時間をみて縫ったりしていました。これはお金のかかり人手もかかります。そこへ昨年8月より『えがおの会』の方がボランティアで来て下さるような



りました。1ヵ月～2ヶ月に1回3人から5人の方が、朝10時～午後3時、4時までお弁当を持って来てくれます。内容は衣類の修繕、袖やズボンの裾の調整、タオルエプロンの作成、シーツの修繕、ヒモつけ、バスタオルでマットを作るなどです。やってほしい事に対して、見本をつくり材料を持ってお願いすると見事に作成修繕してくれます。ボランティアに来ていただいている方は「これでいい?」「こんなふうにやってみた」とどんどん進めていって下さいます。今はA2病棟、A5病棟も利用するようになり、今は当院にはなくてはならないボランティアの方々になっています。本当にありがとうございます。



作業風景

院内にも花いっぱい

C1病棟看護師長 藤井 千穂子



毎年春があけると重症心身障害児（者）病棟に続く廊下に葉っぱだけのシクラメンの鉢と色々な種類の蘭の

鉢が置かれます。日を追うごとにシクラメンの葉の間から花の茎が1本2本3本と次からつぎへと出てきます。そのうち、白、ピンク、赤、紫色の花が咲き始めます。蘭も花芽がでてきてシンビジウム・オンシジウム・デンドロビウムなど白、黄色、紫色の花を咲かせてくれます。蘭の花からはほのかな香りがします。この花を毎年提供しているのがC2病棟の看護助手 望月美知子さんです。「子供を育てるように一つひとつに愛情をかけています」との事

でした。1月～3月にかけて重心病棟に続く廊下は暖かい日差しの中シクラメンと蘭の花でいっぱいです。患



者様の家族や職員が足を止めて見入っています。「本当にきれいですね、毎年咲かせる事ができるなんてすごいですね」「癒されますね」という言葉がきかれ



ます。患者家族と職員の会話も増えて癒しの場になっています。望月さん毎年ありがとうございます。

第27回てんかん専門職セミナー報告

平成23年2月25日(金)

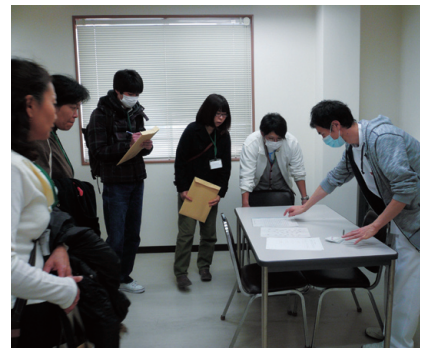
2月とは思えないような温かさの中、第27回てんかん専門職セミナーが開催されました。毎年8月頃に「乳幼児・小児のてんかん」、2月頃に「成人のてんかん」をテーマとして、医療・介護・福祉・教育の各分野の専門職(看護師・介護福祉士・介護支援員・生活支援員・精神保健福祉士・児童指導員・職業指導員等)の方々を対象に行われています。今年の講義は、1.「てんかんとは？」を山崎悦子医師 2.「てんかんを持つ人の日常生活」を原稔枝看護師 3.「成人てんかん患者さんの行動特性」を菅原洋平作業療法士にいただき、最後に施設見学を行いました。受講者は35名で、例年のように主に県



内広域の施設から参加があり、遠くは福井県からも受講されました。

参加者の皆様は熱心に聴講されて、自身の経

験をふまえた質問が多く出され、活発な質疑応答が交わされ充実した一日となりました。希望者による院内施設見学では、病棟、中央脳波室、リハビリ棟を回り、現場での説明に興味深く聞かれていました。



セミナー後にご協力いただいたアンケートを拝見したところ、「講義で使われた医療用語が理解できなかった」「講義資料が一部なくメモを取るのが精一杯だった」など、改善点がまだあると感じました。

このセミナーをお世話したスタッフの一員として、「てんかん」という疾患がより多くの人々に正しく理解されて、その診断・治療・生活支援のために当センターが利用されることを期待します。

最後に、参加者の皆様から多くのお礼の言葉をいただいた事に感謝申し上げます。

(副診療放射線技師長 児玉 和久)



葵タワー

静岡駅の目の前に静岡で一番高いビルがあります。その姿が静岡市の花「タチアオイ」に似ていることから「葵タワー」と名づけられました。市街地再開発事業として約20年の歳月をかけて昨春竣工しましたところでは。内部には静岡市美術館、ショッピング街などがあり、最上階のレストランからは駿河湾を一望することができます。

(薬剤科 加藤 正紀)



敷地内全面禁煙がスタートしました！

病院は第一に健康を考えなければならない社会的な施設であり、国民の健康を守ることを使命としている立場であることと「健康増進法」により公共的施設では受動喫煙防止の義務づけを受けて、4月1日より、当院に於いても敷地内全面禁煙がスタートしました。

入院パンフレットでの案内や3月からは少々歩くと全面禁煙のポスターを見かけるくらいに患者・御家族への協力依頼に取り組みました。

4月1日から毎日パトロールを行っていますが、皆様へのご理解・ご協力のおかげもあって敷地内での喫煙の方をみかけることはありません。パトロールでは、今までの吸い殻を拾って環境美化運動も行っています。そんな中で癒されるのはオランダや富山にまけないチューリップが重心病棟前の花壇に色とりどりに咲いていることです。

よりよい入院生活が送れるように取り組んでいますのでよろしくお願い致します。

(A3病棟看護師長 山崎 悦子)

独立行政法人
国立病院機構
静岡てんかん・神経医療センター
shizuoka institute of epilepsy and neurological disorders

Goodbye SMOKING Goodbye SMOKING Goodbye

Goodbye

平成23年4月1日(金)より

禁煙

敷地内全面禁煙

病院建物及び敷地内全面禁煙

皆様のご理解とご協力をお願いします。

平成22年 7月1日 病院長

Goodbye SMOKING Goodbye SMOKING Goodbye S

看護師さんを募集しています！

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り ②非常勤職員（外来、B型通園、病棟）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@szec.hosp.go.jp

てんかん外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室	中村		臼井桂	山崎	臼井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今井		井上		松田
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺田	寺田
第6診察室	芳村	山崎		芳村	馬場好
第7診察室		小出		最上	高山
第8診察室			高橋		
第9診察室	重松	大谷		大谷	

神経内科

※第2、4週は馬場(国)

	月	火	水	木	金
第10診察室	杉浦	小尾	山崎		小尾
第11診察室	溝口	溝口	溝口		八木、馬場 [※]

特殊外来

転倒予防外来	随時	溝口、小尾
物忘れ外来	随時	溝口、小尾
遺伝相談	適宜	高橋、溝口、小尾

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00~12:30 ● 13:30~17:00

E-mail ■ renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。
上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

溝口 功一	寺田 清人	藤井 千穂子
舩田 俊一	家田 直幸	仲野 久美子
児玉 和久	中島 賢二郎	堀田 真子
山本 恵	長田 英喜	

発行 ■ 平成23年4月28日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,625円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

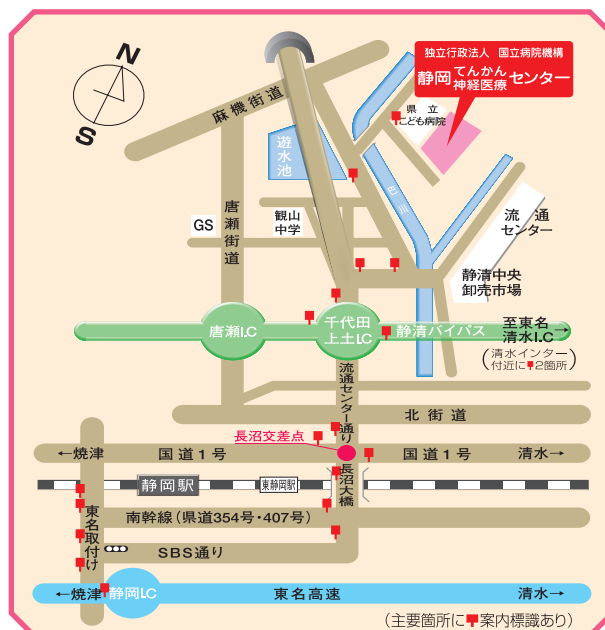
4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	JR 静岡駅前、北口バスターミナル 20 番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約 30 分。片道料金は大人 350 円、小児 180 円。
タクシーをご利用の場合	JR 静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約 20 分。料金は 2,200 円程度。
お車の場合	東京方面から 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約 20 分。
	名古屋方面から 東名高速静岡インターより、国道 1 号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約 30 分。



イベント情報

●てんかん専門職セミナー【小児てんかんにかわる専門職】

2011 年 8 月 9 日(火) 9:30~16:00
於 ◆ 当院管理棟 3 階講堂

●てんかん看護セミナー【てんかんに関心がある又は携わっている看護師】

2011 年 10 月 20 日(木) ~ 10 月 21 日(金) 9:00~17:00
於 ◆ 当院管理棟 3 階講堂

本

●アトラス てんかんの発作間欠時・発作時脳波を読む【診断と治療社、2007 年】

てんかん症候群におけるあらゆる病態の脳波記録を網羅的に掲載し、それぞれについて詳細でわかりやすい脳波判読のしかたを解説しています。

●てんかん症候群：乳幼時・小児・青年期のてんかん学【中山書店、2007 年】

世界で愛読されているてんかんの教科書です。典型的な発作 DVD が付属しています。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟 1 階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- ① てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- ② ホームページによる情報提供
- ③ てんかん協会との連携
- ④ 医療などの相談(予定)